

第4回わかやまリノベーションまちづくり構想検討委員会

前回の主な発言と 和歌山の空間資源について

和歌山市

平成28年11月14日



第1回委員会(7/15)の主な発言

- まちなかに体験型市民農園をつくり、緑のあるまちと農で楽しむまちを実現させてほしい。
- まちなかの駐車場を農地にし、収穫したものをまちなかの飲食店で食べられるようにしてはどうか。
- 空き家を埋めた後のことまで考え、労働力の流出を防ぐ取組をディスカッションする必要がある。
- つくると同時に、何を捨てるのかを考えていかなければならない。
- 学生を巻き込んで、面白い仕事を創り出し、まちなかで起業する仕組みを作るべき。
- 加太には、古い木造家屋や廃業した民宿等のストックがたくさんあり、まちなかにつないで考えていくべき。
- 和歌山大学の学生がまちなかに来て帰るための交通手段を考える必要がある。

第2回委員会(9/1)の主な発言

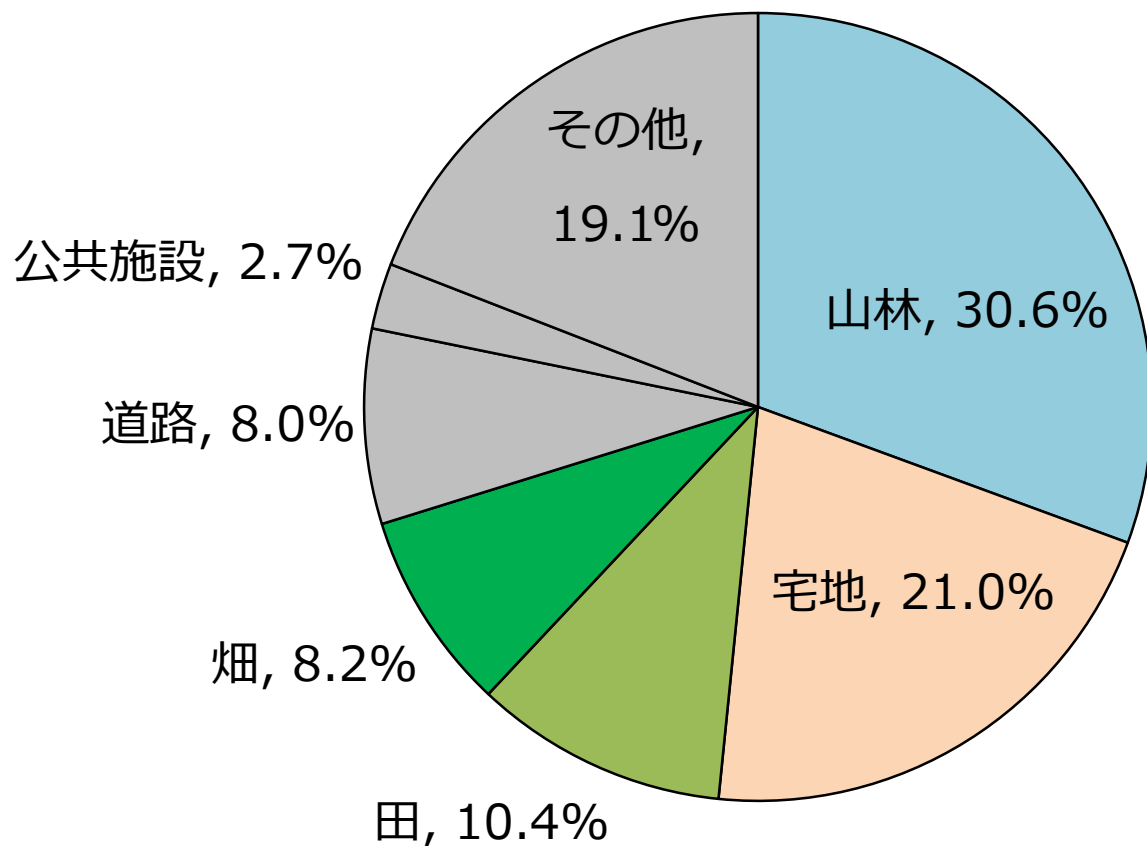
- 和歌山大学生をまちなかへ送迎するナイトバス・ナイトタクシーを実現させたい。
- 加太の川沿いにある繊維工場を飲食店にするとよいのではないか。カフェや農業をする人たちと一緒に、建物、農地、港をつないで面で展開できるとよい。
- 南海電鉄のプロモーションにより、車が入ってこない路地の空き家の軒先でマーケットを開催してはどうか。
- その地域にある空き家を全部宿として使うのが、加太のまちに合うのではないか。
- 空き家の用途を変更する際、建築基準法を守りつつ、上手く活用できる仕組みの検討が必要。
- 和歌山電鉄、和歌山駅、市駅、加太を結ぶ電車を一本化できないか。
- 加太の一番美味しい魚介類は、加太でなければ食べられないようにすれば全国的なブランドになるのではないか。

第3回委員会(10/20)の主な発言

- 既にあるカフェなどをフォトスポットにし、子どもと家族で写真が撮れるようにすれば、SNSを通じて和歌山のPRにもなる。
- 和歌山に駄菓子屋がない。駄菓子屋のおばちゃんに見守り代を渡し、夜まで開けてもらってはどうか。
- RICO、ヌメロ、水辺座、石窯ポポロの軒先で2時間くらい駄菓子屋を開くと、まちが変わる。
- 自然を通して五感を感じる体験を自然を楽しむ大人が子どもに教えるべき。
- お年寄りや一人暮らしの方が、子どもに昔の遊びや習字を教える活動などをすればよい。
- 同窓会に家族、子どもを連れて、地元の飲食店、海、カフェを巡り、親が育った場所を見せてはどうか。
- 和歌山は都会であり田舎であり、子育てもしやすい。世界にも開けているが、情報が整理・発信できていない。
- 子どもと高齢者の公園の使い方など、行政が分けすべき。

和歌山市の土地利用状況

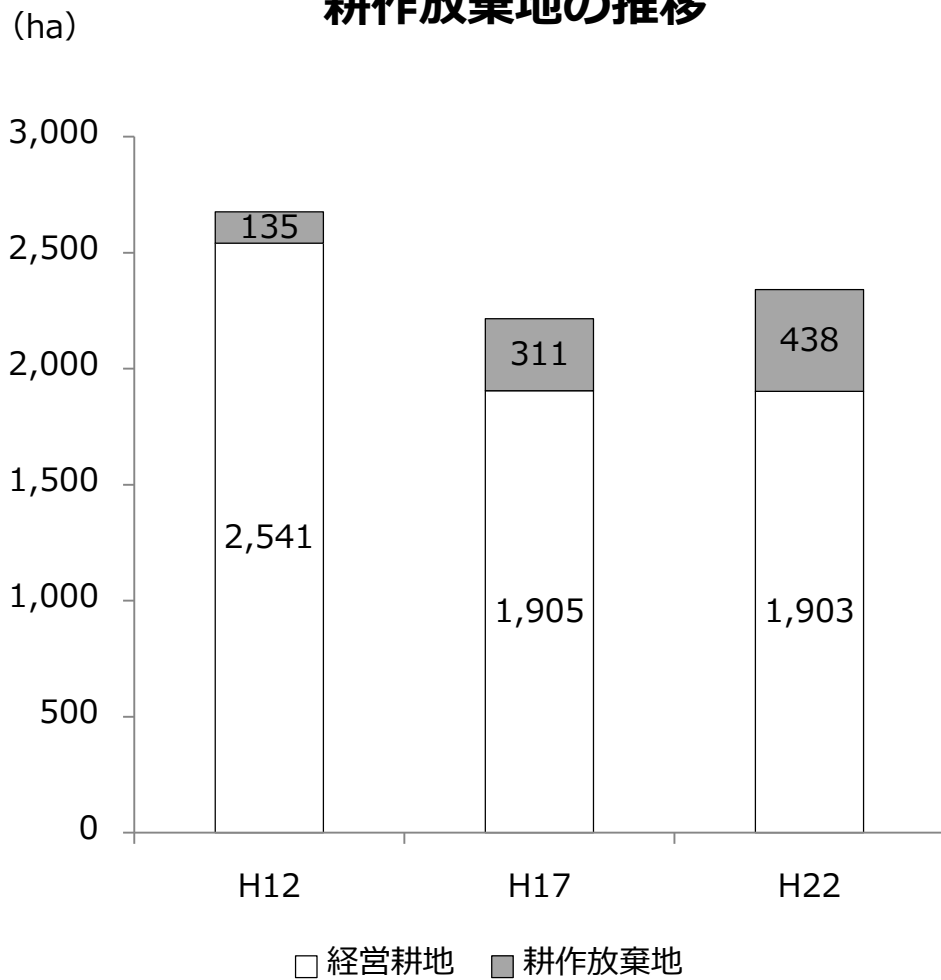
和歌山市の土地利用は、山林が最も多く、次に宅地、農地（田・畑で18.6%）となっている。



出典：和歌山市都市計画マスタープラン（上記調査は平成21年12月時点のもの）

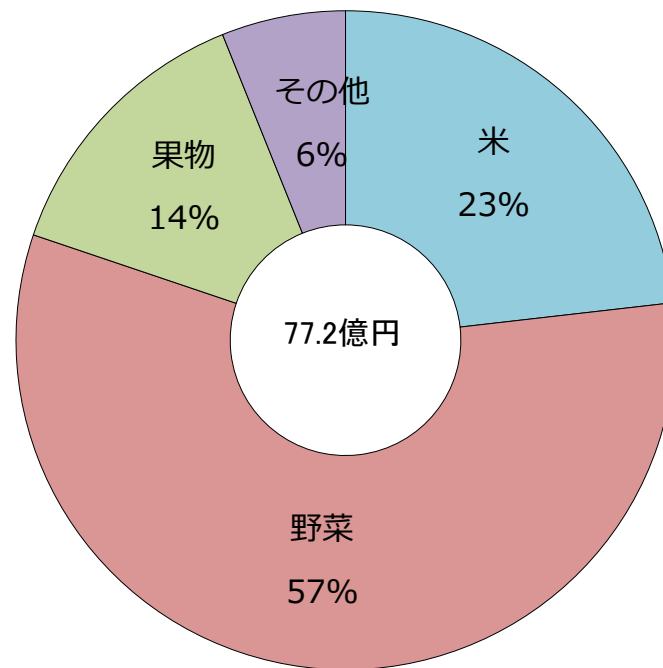
和歌山の農地の現状

耕作放棄地の推移



出典：農林業センサス（農林水産省）

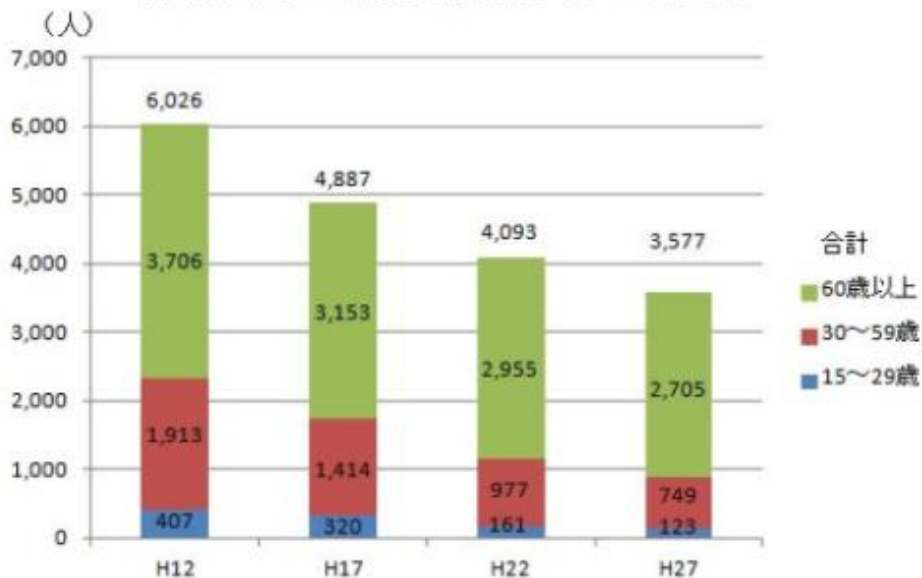
本市農業産出額



出典：市町村別統計 検討協議会（H25-26）

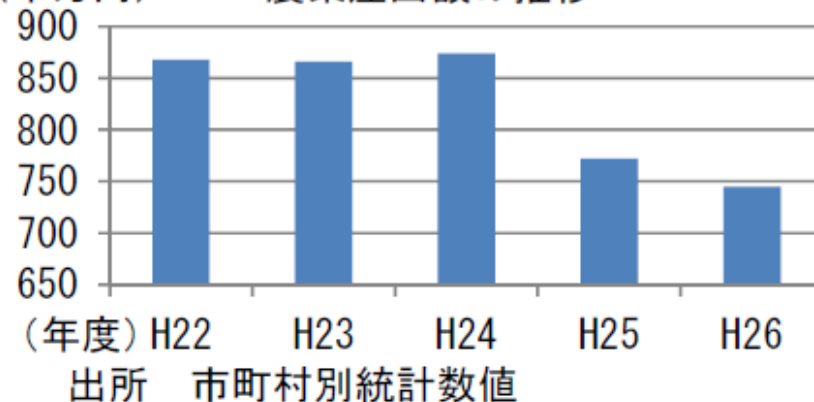
和歌山の農業の現状と課題

和歌山市の農業就業人口の推移



出所 農林水産省「農林業センサス」(各年版)

(千万円) 農業産出額の推移

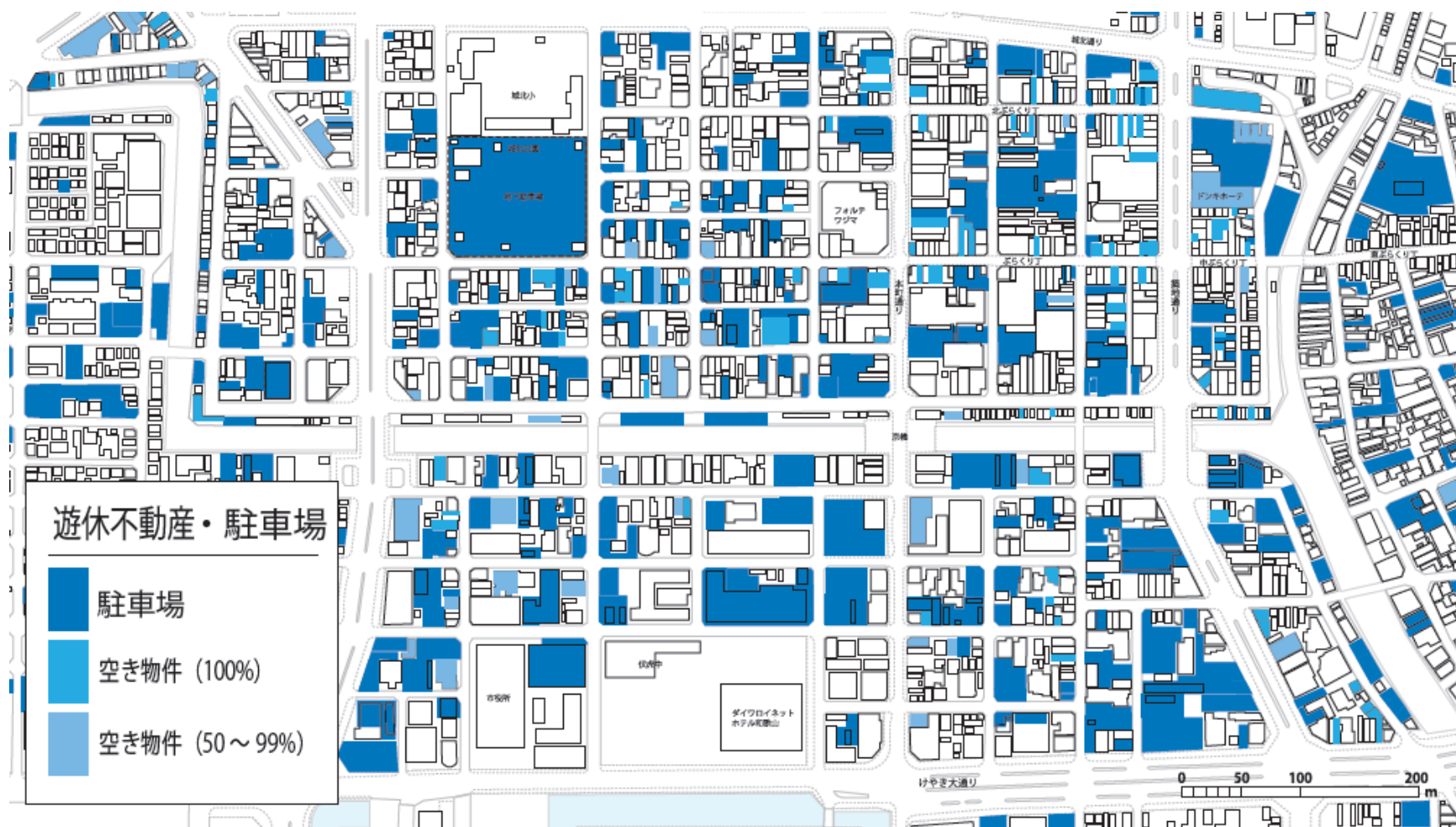


(主な要因・背景)

- 農業就業者数の減少
- 農産物出荷量の減少
- 農業者の高齢化
- 後継者不足

まちなかの遊休不動産

まちなかには空き店舗や空き家、空きビルが多い。駐車場も非常に多く、月極駐車場は稼働率も非常に高い。



まちなかの公共不動産

まちなかには、市堀川や道路などの公共空間のほか、行政の所有する遊休不動産もあり、それらの活用についても検討が必要。



公共不動産の活用

最近では、歩道や車道を利用したイベントや、河川を利用したイベントが増え、公共空間のあり方が見直されている。

河川の活用



道路を通行止めにしたイベント



歩道を利用したマーケット



駐車場を利用したイベント

